

富山経協



サクラ ‘コシノフクカサネ’ (解説・19ページ)

CONTENTS

- 2 東部地区会員懇談会（報告）
- 2 講演会（要旨） 「不確実性を増す世界のなかの日本」
- 4 Top Interview
アイシン新和 安藤英明社長
- 6 人事労務管理 INFORMATION
- 7 労働指標
- 8 事業活動報告
- 8 特定（産業別）最低賃金の改正
- 9 委員会活動
- 12 見学会
- 12 参加者NOTES
- 13 講座・セミナー
- 18 新会員の紹介
- 18 会員の動き
- 20 おしらせ・事業予定

東部地区会員懇談会

11月8日(金)、ホテルグランミラージュにおいて111名(会場89名、オンライン22名)が参加して、東部地区会員懇談会を開催した。

第1部の講演会では、慶應義塾大学総合政策学部准教授の鶴岡路人氏を講師に招き、「不確実性を増す世界のなかの日本 ～欧州、中東、アジアの同時危機にいかに対処するか～」と題して講演頂いた。(講演要旨は2頁に掲載)

第2部の懇親会では、中西副会長が、「今年もいろいろなことがあり、能登の地震や大雨による被害では一日も早い復興を願う。明るい話題では、オリンピックやパラリンピックの選手や大リーグのドジャースの大谷選手や山本選手の活躍があった。来年がよい年となれるように皆様には取り組んでいただきたいと思います」と開会挨拶をし、来賓の山室富山県商工労働部長より「皆様方には引き続き経済産業のけん引役として、社員のウェルビーイング向上につながるようご協力をお願いしたい」と挨拶があった。

続いて、山下会長が「日本の衆院選やアメリカでは大統領選があり、これからは様々な変化に対応することが必要と感じる。本日お集まりの企業や組織が繁栄していくことを祈念する」と述べて、乾杯の発声をした。



挨拶する中西副会長 山室商工労働部長より祝辞 山下会長による乾杯 谷川副会長が中締め

和やかな歓談がつづく中、中締めとして谷川副会長から「物事は一方向だけから見るとはダメで、いろいろな角度からから見ないといけない。色んなリスクがあり、巡り巡って自社に影響することもある。来年は巳年で、蛇は復活と再生のイメージがある。また、トランプ政権の復活でいろいろなカードを切ってくるかもしれないが、粘り強く取り組んで脱皮し、ここにお集まりの皆様が刺激し合って成長していけたらと思っている」と挨拶して一本締めを行い、散会した。

● 講演要旨

不確実性を増す世界のなかの日本

～欧州、中東、アジアの同時危機にいかに対処するか～

講師 慶應義塾大学

総合政策学部 准教授

鶴岡 路人 氏



来年の1月20日には、再びトランプ大統領が就任する。世界に様々な問題がある中で、米大統領が代わると、様々な変化を同時に見ていかなければいけない。

1. 国際関係は関心・リソースの奪い合い

世界中で様々な紛争などが同時

に起こると、どこに一番注目するかを選択を迫られる。2022年2月にロシアがウクライナへ侵攻した際、世界の関心はウクライナに向かったが、昨年10月7日のイスラエルでのテロ以降は、一気に国際社会の関心が中東に向かった。

オバマ政権の2011～12年に「Asia Pivot」がはかった。アジ

ア重視。それまでアメリカは中東で忙しかった。2001年の9・11以降、アフガニスタンに部隊を駐留させ、2003年からはイラク戦争。それらが終わろうとしていた。そして、ヨーロッパが平和だった。そのため、アジア重視が可能になった。

これは逆に言うと、その2つが

なくなると、Asia Pivotの根底がなくなってしまう。我々日本にとってアメリカは唯一の同盟国であるが、アメリカにとって特別な同盟国は世界中にたくさんある。この現実を理解することが、日米同盟を考える上で非常に重要だ。

2. トランプ大統領再登板のインパクト

今後のトランプ政権を考えたとき、日本の観点で一番重要なのは、トランプ氏にとって同盟は何かということ。同盟を負担としか考えていないのが第1次トランプ政権で明確になった。彼は敵対国と同盟国をほぼ同列に論じるような発想だ。貿易でアメリカが赤字だから中国はひどい、EUはもっとひどいという発言もある。価値を共有する同盟国とそれ以外という発想が恐らくない。日本にとっても非常に懸念すべきことだ。

今回の再登板は、「アメリカファースト」をさらに純化させることが明確だ。その筆頭は関税だ。今、EUにとっての最大の悪夢は、中国への高関税によりアメリカ市場へ入りにくくなった中国製品がEU市場に大規模流入すること。そして、その過剰流入を防ぐためにEUが関税措置を取り、関税戦争のようなことが起きたとき、日本はどう対応できるのかを、政府は真剣に考えておく必要がある。

もう1つは防衛に関するバードンシェアリング。NATOへはGDP（国内総生産）比2%を国防予算に使うことを2014年以降ベンチマークとしてやってきた。トランプ氏が大統領になると3%の数字が現実味を帯びてくる。

そうしたときに、安全保障環境が一番厳しいのはインド太平洋、北東アジア地域だからアメリカにもっとコミットメントしてと言っている日本が2%に満たない水準

でよいかは疑問だ。

ただ、日本が自らの安全保障環境は厳しさを増していると言うのであれば、それにどう対処するかは第一義的に日本の問題だ。だから、日本として何が必要なのかをしっかりと議論することが、今後さらに重要になってくる。

3. 中東紛争が浮き彫りにした世界（米欧）の不都合

中東でこれ以上の紛争が拡大すると、日本にも影響が大きくなる。中長期的に一番懸念されるのは、ダブル・スタンダード批判だ。ロシアを批判しながら、同じように民間人を虐殺しているイスラエルをなぜ批判しないのかと。そうしたアメリカやドイツへの疑問の声が世界中で高まり、その結果として彼らが持っている正当性（レジティマシー）がかなり低下している。日本が、同盟国アメリカやパートナー諸国のG7・EUと価値を共有することにより、国際社会のパワーゲームに参入していることになる。そうすると、アメリカなどの国際的な評判が下がることは、日本にとって深刻な問題だ。

ここで、国際社会に対して我々はアメリカと違うと強調するオプションはもちろんあるが、その先に日本は何を構想するかが見えてこない。日本はジレンマに直面している。グローバルサウスの影響力が高くなると、G7の影響力は相対的には低下していくわけで、西側の自由や民主主義を共有するグループの相対的な地位が下がれば下がるほど、価値にしがみついて凝縮性を上げていかないといけないというのが、今、G7や米欧がやっていることだ。

かけ橋と口で言うのは簡単だが、かけ橋ぶっていたら、気がついたら板挟みということは幾らでも起き得る。だから、本当に日本

が今後どうやって生きていきたいのかということにかかってくる。

4. 関心低下に悩むウクライナ、危機感の拡大する欧州

トランプ政権になったとって急に全てのウクライナ支援が止まることはないだろう。アメリカも体面を保てる妥協点を見つけてロシアを譲歩させることが、アメリカがやらなければいけないことだ。

ウクライナの停戦について強調しておきたいのは、ロシアに譲歩させないと終わらないということ。再び侵攻を繰り返させないメカニズムをつくるまでをセットで考えなければいけない。ボールはロシア側にあると同時に、欧米の側にもある。

ロシアが勝つことは日本にとっても極めて不都合なことだ。国際社会がジャングルのように弱肉強食の世界だったら、日本は弱者だ。はっきり言うと、強国にとって世界はジャングルであってもよくて、ルールに基づく国際秩序は日本のような弱者のためにある。

そういうときに、この戦争でロシアが勝ってしまうと、世界の独裁者に対して、しょせん民主主義国家は最初は支援するけれども、3年も経てば支援疲れになるなどという教訓を世界中に示してもいいのかということ、日本にとってかなり切実な問題だ。

5. 日本の選択

米大統領が誰であろうと、日本がやらなければいけないことを日本のために粛々とやるのを基本とし、特殊な政権なので、特殊な対応をしないとイケない。それらを両立させないとイケない。そのときに、国内の政権基盤が問われていくので、外交、安全保障、国際関係で埋没しないためにも、強い安定政権が必要だと感じている。

少量部品対応で オンリーワンめざす 「生声活動」で明るい工場づくり

なま ごえ

アイシン新和株式会社
代表取締役社長

安藤 英明 氏



創立60周年を迎えられました。

1964年、自動車産業が進展する中、富山県と入善町から積極的な誘致活動があり、親会社の高丘工業(株)(現アイシン高丘(株))の子会社として設立しました。県内初の自動車部品製造工場で、6月には町民にも開放して感謝祭を催し、楽しんでもらいました。

事業内容をお伺いします。

当社が製造するのは、0.1～10kg

程度の小物 casting 部品で、94%が自動車用です。エンジン周りの小さな部品や、駆動系の部品、ブレーキパーツなど、そのうちトヨタ向けが約80%を占めています。年間の生産重量は約6万6,000t、生産個数は2,500万個になります。

砂型による casting 法なので、低コストで少量生産に対応でき、取り扱っている品番は4,000点にも上ります。このうち量産は5%だけ

で、残り95%は数週間から数年に一度の少ロットですが、これだけの商品点数を抱えている部品メーカーは、恐らく世界にもないと思います。

casting ラインは3本あり、1つは最新設備ですが、2本は50年前から稼働しています。最近まで鉄の溶解にコークスを使っていましたが、CO₂の削減に向け、1本は電気溶解に切り替え、もう1本もヤシガラ由来のバイオ燃料の導入を検討しています。

ー中身を変え競争力アップー

カーボンニュートラルの取り組みも進めていらっしゃるんですね。

今や環境への配慮なくして企業活動は成り立ちませんが、カーボンニュートラルを目指すことは、エネルギーコストを削減し、競争力が上がるという考え方で進めています。

アイシン高丘ではエネルギーのジャストインタイム「エネJIT」という考え方を持っており、当社も金属を溶かす工程を見直し、溶解した状態で金属を保温するのを一部でやめ、使用電力量を大幅に減らすことができました。ただ、電気料金の値上げで電気代が高くなったのが誤算です。

2021年に社長に就任されてからの取り組みを教えてください。

経営方針の中に「3つの原点復帰(設備・標準・意識)の早期完了」があります。私は機械加工の設備導入及び保全を長年務めてきました。当社へ赴任して工場に入ったとき、スムーズに動いていない機械が気になりました。設備を一斉点検して改善点を見出し、すぐに設備の修理・更新に着手しました。現在、計画の9割まで進んでいま

す。同時に機械・道具を正しく使うよう、作業の標準化も進めてきました。

あとは人の意識です。強制されてやるのではなく、「なぜこれを守らなくてはいけないか」という意識が大切です。

－声を吸い上げ意識づけ－

そうした意識づけは、どのようにされているのでしょうか。

社長に就任してから「小さなことでもなんでも言おう、みんなの声で元気で明るい工場づくり」というスローガンを打ち出しました。米国の会社で指揮を執っていたときに始めた、社員1人ずつから直接話を聞く「生声活動」を、当社でも実践しています。

標準化は一度やって終わりではなく、現場の技能員の方から問題を吸い上げて、全員がやりやすい作業にしなければいけません、本音を聞き出すのはなかなか難しいものです。経営方針などは現場の班ごとに説明していますが、一人ひとりに「格好いい言葉を並べているけど、そんなことできないよって不満に思うことを教えて」などと聞いています。

最初は何も言ってくれず、2年目に少し不満が出て、3年目によく「暗くて作業しにくい」「あそこが大変そうだ」などと建設的

な意見が出るようになってきました。これこそが「意識」につながるものです。出た意見を取り入れて改善し、対応できないものにはきちんと回答しています。

この活動は、外国籍の派遣従業員とも通訳を介してやっており、今は労働組合も一緒になって聞いています。

次世代育成支援対策行動を策定しておられます。

社員のキャリア形成の支援です。例えば監督者向けには一定の教育を受けることなどを義務づけていますが、昇進を目指す人が減る傾向があるので、教育プログラムと同時に給与・手当の見直しも行っています。

また、社外で教育を受けたいという人にも支援しており、この制度で社会保険労務士の資格を取った人もいます。

女性の活躍についてはいかがですか。

昨今の売り手市場で、工業高校の卒業生の採用が難しい中、普通科卒の女性が入社しています。生声活動では女性の方が活発に意見を出してくれ、女性目線の指摘で新たな気づきをもらうことも多々あります。

現場で女性の係長や班長は何人も活躍していますし、今年1月には女性初の総務部長が就きました。

今後の展望を教えてください。

自動車の電動化が進み、エンジン周りの量産品が減少する中で、EV関連で鋳造技術が必要とされる仕事の増加は見込めません。

これまで4,000点もの多品種を扱ってきた対応力を強みにしたいと考えています。少量部品に対応することは効率が悪く、当社の足かせでもあったのですが、それは他の部品メーカーも同様で、さらには多様な車種を抱える自動車メーカーの悩みでもあるのです。

電動化が進み、少量部品はさらに敬遠される中で、逆に、適正かつ低コストで小物少量部品を製造できる会社としての地位を確立し、オンリーワンの生産会社を目指していきます。

座右の銘をお伺いします。

この会社に赴任して「温故知新」という言葉を実感しています。鋳造は原始的な技術で、古くからのノウハウが詰まっています。トラブルが起こるのは、その何かが上手く伝わっていないからで、原点を振り返って諸先輩が積み上げてきた仕事を学び直し、次世代へつないでいかなくてはいけないと思っています。

根本を正しく学び、オンリーワンになるためのチャレンジを重ねていきます。

略 歴

1964年4月愛知県瀬戸市出身。名城大学理工学部卒業後、1988年アイシン高丘㈱入社、2012年常務役員、17年専務役員、米国現地法人CEOを兼務。2020年アイシン新和㈱監査役、顧問を経て、2021年6月から代表取締役社長。



経営方針を説明しながら従業員の生の声を聞く

会社概要

アイシン新和株式会社

設立：1964(昭和39)年11月
所在地：入善町入膳2458
資本金：4億7,600万円
事業内容：自動車部品を主体とする鋳造、機械加工製品の製造・販売
従業員数：453名(2024年9月現在)
売上高：134億円(2024年3月期)
関係会社：新和工業㈱
URL：<https://www.aisin-sinwa.co.jp>

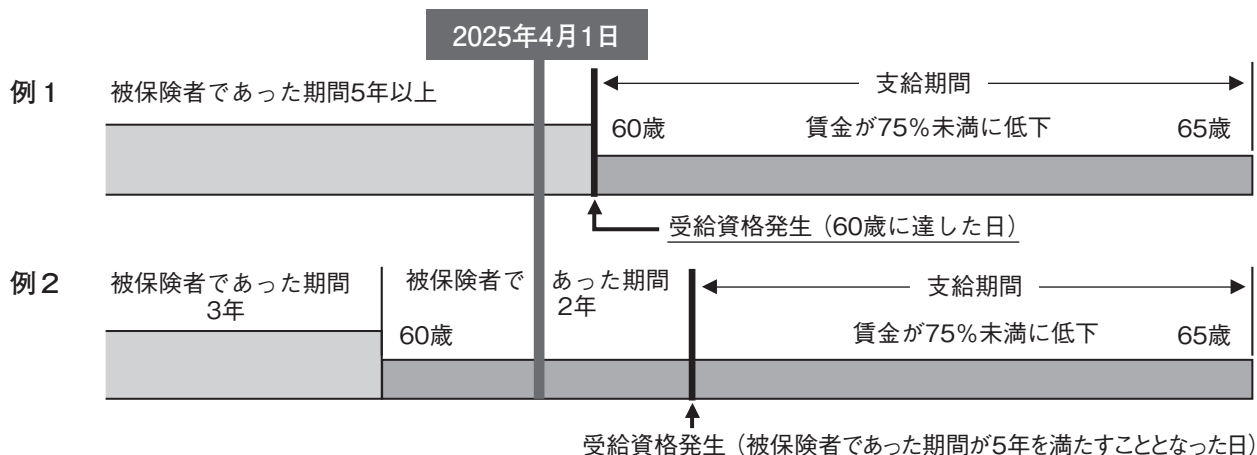
2025年4月1日からの高年齢雇用継続給付の支給率変更について

高年齢雇用継続給付とは、60歳到達等時点に比べて賃金が75%未満に低下した状態で働き続ける60歳以上65歳未満の一定の一般被保険者の方に支給される給付です。

以下の方の支給率が変わります。

- ①2025年4月1日以降に60歳に達し、その日時点で雇用保険の被保険者であった期間が5年以上であった方（例1）
- ②2025年4月1日以前に60歳に達し、その日時点で雇用保険の被保険者であった期間が5年以上ない方で、2025年4月1日以降にその期間が5年以上となった方（例2）

なお、2025年3月31日以前に60歳に達した日（その時点で雇用保険の被保険者であった期間が5年を満たすことになった日）を迎えた方は現行の支給率からの変更はございません。



<2025年4月1日以降の支給率>

各月に支払われた賃金の低下率	賃金に上乘せされる支給率
64%以下（61%以下）	各月に支払われた賃金額の10%（15%）
64%超75%未満（61%超75%未満）	各月に支払われた賃金額の10%（15%）から0%の間で、賃金の低下率に応じ、賃金と給付額の合計が75%を超えない範囲で設定される率
75%以上	不支給

※（ ）内は2025年3月31日以前の低下率・支給率です。
※ 支給限度額・最低限度額の取り扱いに変更はありません。

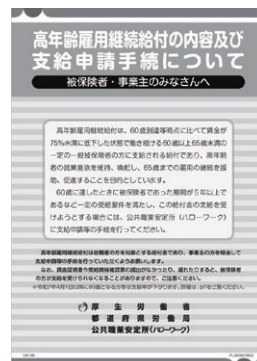
<申請手続きについて>

具体的な支給申請手続きについては、パンフレット「高年齢雇用継続給付の内容及び支給申請手続きについて」をご覧ください。



ハローワークインターネットサービス

<https://www.hellowork.mhlw.go.jp/insurance/insurance.continue.html>

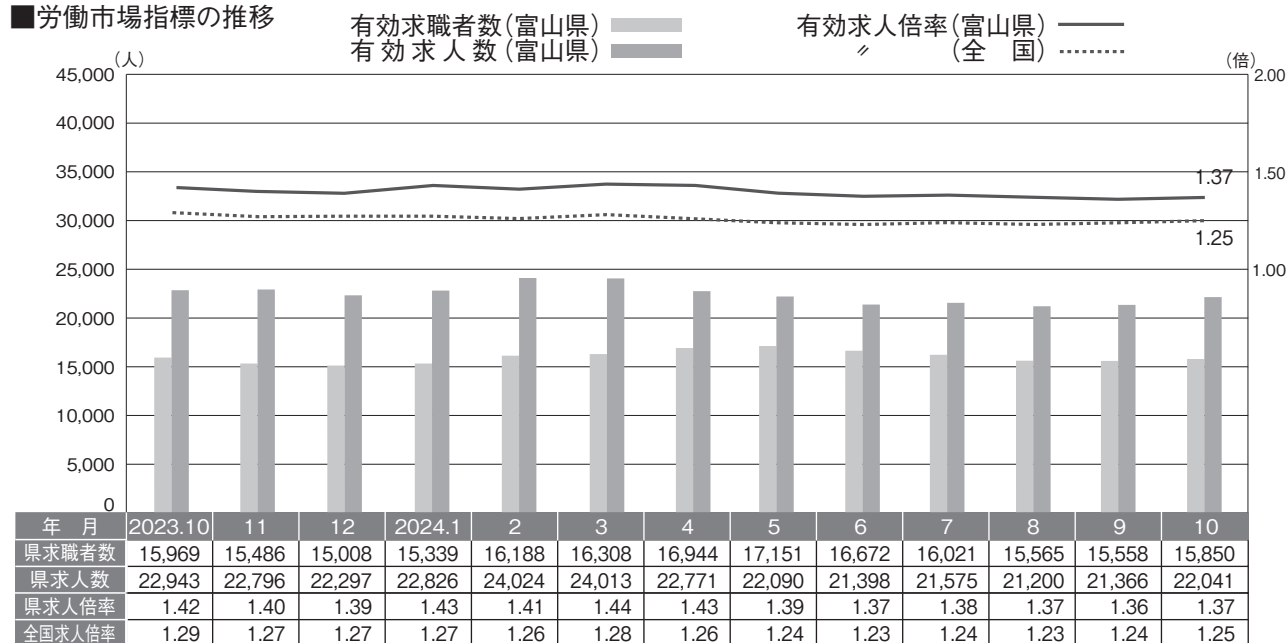


「人事・労務出前相談室」のご案内 <初回無料>

会員企業の皆さまを対象とした、人事・労務に関する出前相談を、初回無料でお受けいたします。詳しくは、当協会ホームページまたは「富山経協」10月号（Vol.884）11頁をご覧ください。

労働指標

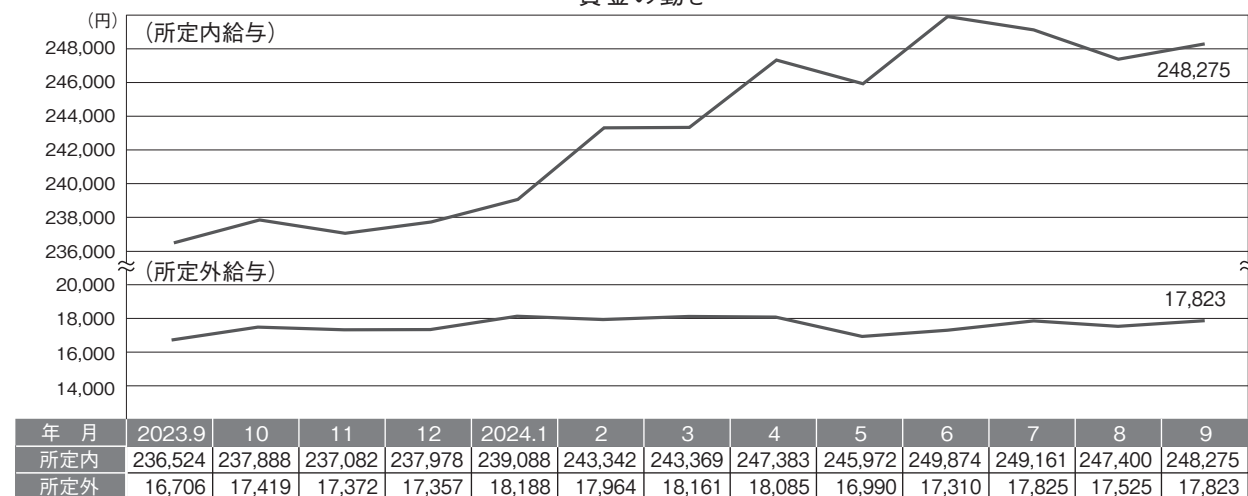
労働市場指標の推移



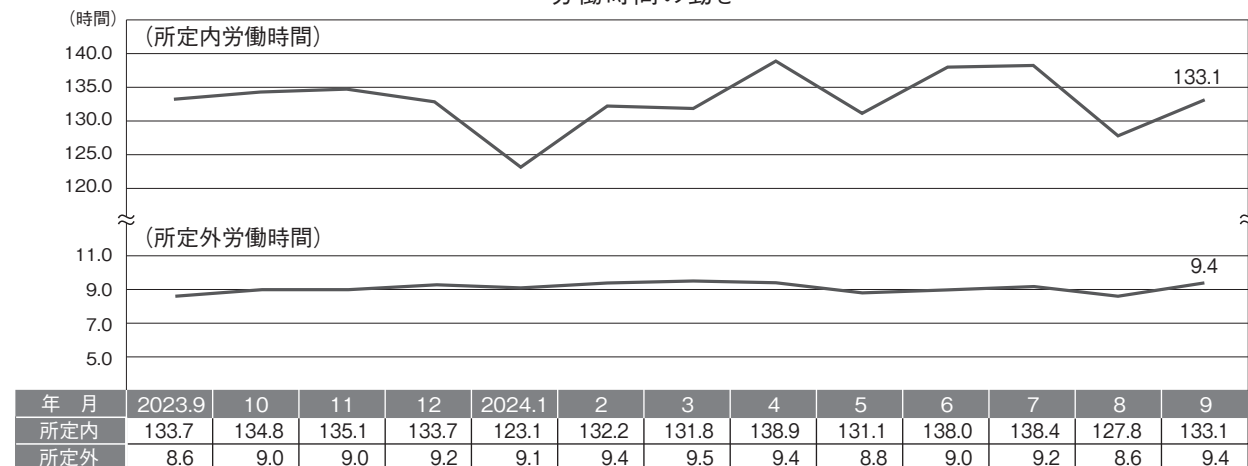
出典：富山労働局「労働市場月報」https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/jirei_toukei/shokugyou_shoukai/toukei.html
 注）2023年12月以前の有効求人倍率の数値は新季節指数により改定されています。

賃金・労働時間の動き(調査産業計、事業所規模：5人以上)

賃金の動き



労働時間の動き



出典：とやま統計ワールド「毎月勤労統計調査 地方調査月報」<https://www.pref.toyama.jp/sections/1015/index2.html>

事業活動報告

2024年10月8日～12月10日

(O L)＝オンライン併用開催

事業名		委員会名	開催日	場所	参加人数
会議	東部地区会員懇談会		11月 8日(金)	ホテルグランミラージュ(O L)	111名
	経営企画・IT委員会「情報交換会・定例委員会」	経営企画・IT	11月14日(木)	三協立山(株)本社、ショールーム	9名
	品質管理委員会「幹事会」	品質管理	11月14日(木)	富山経協・研修室	6名
	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	11月22日(金)	富山経協・研修室	6名
	教育委員会「幹事会」	教育	11月25日(月)	富山経協・研修室	7名
	環境委員会「幹事会」	環境	11月25日(月)	富山経協・研修室	11名
	品質管理委員会「定例委員会・講演会・GD」	品質管理	12月 5日(木)	タワー 111ビル3階スカイホール	33名
	総務・交流委員会「定例委員会」	総務交流	12月 9日(月)	富山電気ビルディング 4階7号室	12名
	人事・労務政策委員会「講演会・定例委員会」	人事・労務政策	12月10日(火)	富山経協・研修室(O L)	38名
会員交流	会員交流ボウリング大会	総務交流	11月13日(水)	富山地鉄ゴールデンボウル	104名
見学会	品質管理委員会「県外企業見学研修会」	品質管理	10月17日(木)・18日(金)	(株)アイシン福井、日華化学(株)	14名
	総務交流委員会「企業見学会」	総務交流	10月21日(月)	(一財)北陸電気保安協会	9名
	環境委員会「県外企業見学研修会」	環境	11月19日(火)・20日(水)	(株)アイシン、日東工業(株)	13名
講座・セミナー	職場リーダー実践コース	教育	10月8日(火)・9日(水)	タワー 111ビル 4階ギャラリー	62名
	キャリア&ライフデザインセミナー		10月10日(木)	富山経協・研修室	21名
	ヒューマンエラー未然防止セミナー	品質管理	10月11日(金)	富山経協・研修室	42名
	現場の技術・技能伝承支援研修	品質管理	10月15日(火)・29日(火) 11月12日(火)・21日(木)・26日(火) 12月 3日(火)・ 4日(水)	富山経協・研修室 現場実習企業 インテック大山研修センター	16名
	労務管理実務講座	人事・労務政策	10月16日(水)・30日(水) 11月13日(水)・27日(水)	富山経協・研修室(O L)	20名
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	10月17日(木)・31日(木) 11月 7日(木)・28日(木)	富山経協・研修室	22名
	管理職基礎コース	教育	10月18日(金)	富山経協・研修室	42名
	若手社員実践コース【A日程】	教育	10月22日(火)	富山経協・研修室	36名
	若手社員実践コース【B日程】	教育	10月23日(水)	富山経協・研修室	35名
	ものづくり女性社員のための改善力向上セミナー	品質管理	10月25日(金)	富山経協・研修室	29名
	ISO9001内部監査員養成講座	品質管理	11月 5日(火)・6日(水)	富山経協・研修室	32名
	変化点管理の考え方・進め方セミナー	品質管理	11月15日(金)	富山経協・研修室(O L)	19名
	管理職中級ステップアップコース	教育	11月19日(火)・20日(水)	富山経協・研修室	25名
	労働法実務講座<第3回>	人事・労務政策	11月21日(木)	富山経協・研修室(O L)	27名
	5Sと目で見える管理活動実践セミナー	品質管理	12月 5日(木)	富山経協・研修室	31名

特定（産業別）最低賃金の改正

富山県の区域に設定している特定（産業別）最低賃金が下表のとおり順次改正発効となります。

最低賃金の件名	時間額	効力発生日
富山県玉軸受・ころ軸受、他に分類されないはん用機械・装置、トラクタ、金属工作機械、機械工具、ロボット、自動車・同附属品製造業最低賃金	現行 995 円→ 1,035 円 (+ 40 円)	2024年12月27日(金) から
富山県電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業最低賃金	現行 951 円→ 1,002 円 (+ 51 円)	2024年12月26日(木) から
富山県百貨店、総合スーパー最低賃金	現行 955 円→ 1,003 円 (+ 48 円)	2024年12月26日(木) から

【参考】富山県（地域別）最低賃金 時間額 998 円（2024 年 10 月 1 日発効）

総務交流委員会

■企業見学会

10月21日(月)、水谷委員長以下9名が参加し、(一財)北陸電気保安協会の本部ビルで開催した。当本部ビルは2024年3月に竣工し5月から運用を開始している。

まず、1階の機材展示室にて現場で使用する測定器や試験機を見学し、次の4階では仕事の内容によって働く場所を自由に選べるA BW (Active Based Working) の導入及びDX推進により働き方改革を実践している執務フロアを、3階では非常時に災害対策本部と

して使用する第1会議室のほか5つの会議室や、職員が休憩できるリフレッシュスペースを、2階では高圧受電設備・特別高圧受電設備・非常用発電設備などの研修設備がある実習室を見学し、再び1階に降りPR・体験エリアにて感電やほこりなどでショートするトラッキング現象も体験した。

本部ビルでは、省エネ・創エネにより78%のエネルギー消費量削減を実現しており、創エネ設備として太陽電池発電設備を設置しビル内の使用電力をまかない、非常



時に72時間稼働可能な非常用発電機も設置。防災拠点としても整備しているとのことであった。

今回の見学で当本部ビルが地域の学生・電気技術者などへの電気人財育成を通じ、地域に開かれた拠点を目指していると実感した。

■会員交流ボウリング大会

11月13日(水)、富山地鉄ゴールデンボウルにおいて開催し、26チーム104名の参加者があった。

武内プレス工業(株)米谷徹氏の始球式の後、一斉に競技が開始され、各チーム和気あいあいとした雰囲気の中で熱戦が繰り広げられた。

ゲームは1チーム4人の2ゲーム合計スコアで競う団体の部と一人ひとりの2ゲーム合計スコアで競う個人の部で行われ、女性と男



女問わず65歳以上には1ゲーム20ピンのハンディを適用した。

団体の部は武内プレス工業(株)Aチームが優勝。個人の部は村山三太氏が優勝した。表彰式では、自



団体優勝の武内プレス工業チーム

社参加チームの応援に駆けつけた当委員会副委員長の北日本放送(株)代表取締役社長 島谷浩司氏が各賞のプレゼンターを務めた。

<上位成績>

優 勝
準優勝
3 位

(団体の部)

武内プレス工業(株) Aチーム
(社福)わかば福祉会
富山電気ビルディング(株)

(個人の部)

村山 三太 (武内プレス工業 Bチーム)
筒口 哲也 (武内プレス工業 Aチーム)
米谷 徹 (武内プレス工業 Aチーム)

■定例委員会

12月9日(月)、水谷委員長はじめ委員12名が出席して富山電気ビルディングにおいて開催した。

水谷委員長挨拶後、2024年度事業実施状況報告と2025年度事業計画(案)の審議を行った。事務局より、2024年度事業の定例委員会、調査活動、委員会事業(会員交流事業)の実施状況を報告。2025年

度は、①定例委員会の実施、②定期調査、経営課題調査の実施、③会員交流事業(ゴルフコンペ、ボウリング大会)の実施、④企業見学会等の実施、⑤2025年度版事業活動案内の会員企業へ情報提供等について審議した。指示事項として、調査活動は、今年度評価を踏まえて引き続き実施し、企業見学会は見学会先を今後検討するもの



とし、2025年度の事業計画は、指示事項を踏まえることとして承認された。

人事・労務政策委員会

■幹事会

11月22日(金)、大門委員長をはじめ、副委員長・幹事6名が出席し、富山経協・研修室で開催した。

大門委員長の挨拶後、事務局より2024年度事業活動実施状況及び今後の予定について報告。定例委員会の予定として、12月では富山県協力による女性活躍推進のための講演会、2025年2月には昨年度

に引き続き「人材確保に向けた情報交換会(採用・定着・成長)」を実施することで了承を得た。

また、審議事項の2025年度事業計画骨格(案)では、委員会活動として2025年5月予定の企業見学会候補先、12月予定の富山県協力による講演会のコース選定、2026年2月予定の情報交換会の内容等について、そのほか各種講座・セミナー



の実実施計画等について審議し、事務局案で12月10日の定例委員会に諮ることを決定した。

■定例委員会・講演会

12月10日(火)、第3回定例委員会に合わせ、富山県協力による講演会を富山経協・研修室とオンライン Live にて開催した。

第1部の講演会では、大門委員長はじめ委員(研修室23名)と一般会員(オンライン15名)の計38名が参加。講師には、ともさわ社会保険労務士事務所代表で富山県女性

活躍専門コンサルタントの友澤景子氏を会場に招き、「『女性活躍』から全社員活躍へ ～個を活かしてチーム力をあげる～」と題して講演いただいた。

第2部の定例委員会では、委員23名が出席、委員長挨拶の後、事務局より2024年度事業活動実施状況及び今後の予定について報告した。続いて、2025年度の事業活動



計画骨格(案)について説明し、次年度の定例委員会の活動内容等について審議の上、承認を得た。

教育委員会

■幹事会

11月25日(月)、品川委員長はじめ幹事7名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

品川委員長挨拶の後、2024年度年間事業報告を行った。次に2025年度に向けて委員会活動に関するアンケート結果をもとに、2025年度の活動内容について審議した。定例委員会は6月・8月・12月・

2月の4回開催、うち6月と2月は企業見学会を併催することとし、事務局案の見学候補先について協議した。さらに8月と12月の併催事業についても事務局案をもとに協議した。最後に今年度の部会活動テーマ「人的資本経営における人材マネジメント」の報告を行った。次年度の活動計画(案)や研究部会テーマについても幹事会



案をもとに12月の定例委員会で諮ることが承認された。

品質管理委員会

■幹事会

11月14日(木)、谷川委員長はじめ幹事6名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

谷川委員長の挨拶の後、2024年度事業活動報告を行い、2025年度事業計画(案)について審議した。委員会活動については、幹事会を

4月と11月に2回開催、定例委員会は7月、9月、12月、2月に4回開催し、新たに①企業見学企画部会、②講演・GD企画部会、③勉強会企画部会の3つの企画部会を設置し、内容について検討することとした。県外企業見学会については1泊2日で10月に計画する

ことなど、活動の骨子について審議した。また、講座・セミナーは、改善を加えながら現行の15講座を継続して開催することなどを審議した。

2025年度の事業計画(案)については、12月の定例委員会で諮ること承認された。

■定例委員会

12月5日(木)、谷川委員長はじめ委員・担当者合わせて33名が出席してタワー 111ビル3階スカイホールで開催した。

谷川委員長挨拶の後、2024年度の事業活動報告と2025年度の事業計画(案)について審議した。

2024年度事業報告として、幹事会を2回、定例委員会は、12月までに企業見学会と併せて1回、事例発表・GDと併せて1回、講演会・GDと合わせて1回の3回開催し、2月に勉強会と併せて開催する予定。委員会の会報誌「Join

♡T」第4号は3月に発行予定。県外企業見学研修会は、先進企業を実際に目で見て体感し、参加者間の情報交換を活発に行った。講座・セミナーは、委員の担当割を継続して実施していることと、募集定員を超える講座もあり順調に推移したことを報告した。

2025年度は基本的には2024年度を引き継いで、具体的な内容は新設した企業見学企画部会、講演・GD企画部会、勉強会企画部会で検討する。講座・セミナーは、昨年の計画を元に開催することなど事務局案で承認された。



委員会の後、「脱皮しない品証は減じる」と題して、公立諏訪東京理科大学特任教授 奥原正夫氏が講演した。その後、委員・担当者が5班に分かれ、活発なディスカッションを行った。

環境委員会

■幹事会

11月25日(月)、小田委員長はじめ幹事11名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

小田委員長挨拶の後、2024年度の事業活動報告と2025年度の事業活動計画(案)について審議した。2024年度については、定例委員会は7月「富山県生活環境文化部との情報交換」(機電工業会との共催)と併催して実施、9月は新たな取り組みである「委員相互の情

報交換」を実施したこと等を報告した。また、12月12日(木)には「事例発表会」(機電工業会との共催)と併催することを確認した。

続いて2025年度の事業活動計画(案)について審議し、定例委員会は7月・9月・12月に開催し、7月は「富山県生活環境文化部との情報交換」を併催(機電工業会との共催を継続)、9月「委員企業の情報交換」の併催、12月「事例発表会」の併催(機電工業会との共催を継



続)すること、新講座「BCP(事業継続計画)策定の進め方と教育訓練セミナー」を開催すること等、12月12日(木)の定例委員会で諮ることが承認された。

経営企画・IT委員会

■情報交換会・定例委員会

11月14日(木)、定例委員会に合わせ、情報交換会(活動紹介)を三協立山(株)ショールーム・大ホールで開催した。

第1部の情報交換会は、会社概要説明、ショールーム見学の後、活動紹介「サステナビリティの取組」をサステナビリティ推進部管理グループ 田中美由紀氏より、また活動紹介「人的資本経営に向けた取組」を人事部人材戦略課 塩

野恵子氏よりいただいた。活発な質疑応答の中、他社との情報交換・共有の場となった。

第2部の定例委員会は、萩中委員長はじめ9名が出席して開催した。萩中委員長の挨拶の後、事務局より2024年度事業中間状況について報告した。次に経営課題調査(第2回目)のテーマ設定、来期協会テーマ設定について事前の意見を基に審議した。

次回の委員会では次年度の活動



計画について審議予定。

■環境委員会

県外企業見学研修会

11月19日（火）～20日（水）の2日間の日程で、13名が参加して愛知県を訪問し、県外企業見学研修会を開催した。

1日目は、自動車部品のグローバルサプライヤーである㈱アイシンの「アイシン伝承館」を見学した。「伝承館」はアイシングループの従業員が、過去の不具合から得た教訓を財産として伝承することを目的に設立された、一般には



非公開の施設で、「品質・安全・防火・熊本地震」の4テーマで教育スペースを分け、実際に起きた事故や不具合を動画やパネル展示で詳細に解説することで、過去の教訓を実際の当事者として体感できるよう工夫されていた。

2日目は、分電盤やキャビネットで国内トップシェアを誇る日東工業㈱の「瀬戸工場」を見学した。「瀬戸工場」は2024年4月稼働の新工場で、太陽光発電システムの設置やカーボンフリー電力の購入により100%再生可能エネルギーで電力を賄うサステナビリティを重視した環境配慮型工場であり、カーポート発電では蓄電池のリユース品を採用することや廃プラスチックから再資源化可能な製品



を開発するなど、サーキュラーエコノミーへの転換による循環ビジネスにも取り組んでおり、「環境」を土台とした考え方が工場内の各場所で展開されていた。

参加者は2日間の行程を通して、先進企業を実際に目で見て体感することができ、非常に有意義な見学研修会であった。

参加者NOTES

「県外企業見学研修会」に参加して

株式会社KEC
監査品質保証グループ

多賀 健太郎



今回、環境委員会の県外企業見学研修会へ参加のお話をいただき、以前から興味があった㈱アイシンの「アイシン伝承館」と、当社でも購入しているキャビネットを生産している日東工業㈱の新工場を見学できることに期待を膨らませながら参加しました。

その一方で、当社には環境を扱う専門部署がなく、私が環境についての知識が不足していることに不安を感じながらの参加となりました。

初日に訪問した㈱アイシン伝承館では、「安全」「防火」「品質」

について過去の失敗をパネルや映像にし、社員であればだれでも見学することができるようにしてありました。失敗を公開することによってためらいを感じるとは思いますが、公開することで失敗を繰り返さないという強い思いを感じました。

当社には、過去におそらく失敗からできたと思われる決まり事が多々ありますが、どのような失敗が発生したかまではわかりません。技術や知識を伝承するうえで「失敗の歴史」も伝承することが重要だと感じました。また、「失敗から学ぶ」ことの大切さを痛感

しました。

翌日の日東工業㈱瀬戸工場は2024年4月に稼働を開始した環境配慮型スマートファクトリーです。

目的のキャビネットの生産工程は材料から完成品の運搬までほとんどが自動化されており、広大な工場に作業員がほとんど見当たりませんでした。

その中でも精度を出すことが難しい「仮溶接」と「目視検査」は作業員が行っているとのことでしたが、それでもまだ工場の作業員を減らす計画とお聞きしました。

今回、企業見学研修会に参加して、他社の取り組みを学べたことは非常に有意義でした。当社でもできることから導入したいと思います。

■品質管理委員会 県外企業見学研修会

10月17日(木)～18日(金)の2日間の日程で、14名が参加して開催した。

1日目は、AT車のトルクコンバータ、トランスミッション、ハイブリッドトランスミッション、電動駆動ユニットの専門メーカー「(株)アイシン福井」を訪問した。会社概要と品質保証活動として、①製造主体の横展活動(やらされ感からやる事を考える活動)、②ほめる活動(ほめ育活動として起きた問題を叱るのではなく、出来たことを褒めて育てる活動)の取り

組み説明および品質伝承館の説明があった後、本社工場、支援センターを見学した。ものづくりを通して、鍛え続けてきた多彩なコア技術を蓄積し、新たな知見を加えながら未来のものづくりに貢献する底力を見せていただいた。

2日目は、繊維加工用界面活性剤の製造・販売を主力に事業展開する「日華化学(株)」の界面科学と毛髪科学の2つの研究所を軸に、これまでの研究所という概念ではなく新しい価値を創造する「創発の場」としてオープンした「NICCAイノベーションセンター」を見学した後、品質保証役員と参加者



との活発な意見交換を行うことが出来た。

参加者は2日間の行程を通して、品質管理先進企業を実際に目で見て体感することができた。また、参加者間での情報交換も活発に行われ、非常に有意義な見学研修会であった。

講座・セミナー

階層別研修

■職場リーダー実践コース(第1回)

10月8日(火)・9日(水)、62名が参加して、タワー111ビル4階ギャラリーで開催した。

講師の(公財)日本生産性本部主任経営コンサルタントの澤倉光仁氏が、企業や組織をとりまく環境変化への対応力強化の必要性とその中で職場リーダーの果たすべき役割について講義し、活発な意

見交換を通して理解を深めた。この中で、①目標の達成に導く実践的な展開方法(PDCA手法)を修得すること、②職場リーダーとしてのリーダーシップと部下の性格等に応じた育成の考え方・スキルを身につけること、③部下育成技術としての交流分析やコーチング技法に関する理解と実践力を強化すること、④メンタルヘルスを推



進する上でのリーダーシップ発揮の要点と方法について学んだ。

■管理職基礎コース

10月18日(金)、42名が参加して富山経協・研修室で開催した。本コースは、6月18日(火)・19日(水)の2日間研修に続き、第3日目のカリキュラムとなる。

はじめに、6月の研修後、自社の課題について6月～9月の4か月の間で実践した内容をグループ内で共有し、受講者8名の好事例を全体発表して共有した。

続いて講師の(公財)日本生産性

本部 主任経営コンサルタント 樋口伸亨氏が、前回研修の復習をした上で、①組織力強化のマネジメント、②変革と推進のリーダーシップについて具体的事例を交えて解説し、グループディスカッションでは活発な議論が行われた。特に部下育成について心理的安全性が重要であることを確認した上で、目標やモチベーションの高さにも影響を与えることを学んだ。さらに部下指導のあり方や部



下とのコミュニケーションを検討した。

最後に講師が、これからの時代に対する心構えについてまとめをし、3日間の全日程を終了した。

■若手社員実践コース

10月22日(火)に36名、10月23日(水)に35名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

本研修は、社会人生活5年程度の若手社員を対象に、自身で考え、課題を発見、業務の工夫・改善ができる力を養い、主体的な行動がとれるように実践力を高めること

を狙いとしている。

講師の(公財)日本生産性本部風土改革コンサルタント石川歩氏は、コミュニケーションの重要性について講義と体験型の演習を行った上で、PDCAサイクルのポイントを具体的に解説した。演習を通して異業種の参加者と活発な議論を交わした。



■管理職中級

ステップアップコース

11月19日(火)・20日(水)、25名が参加して、富山経協・研修室で開催した。本コースは、中堅課長(管理職経験3年以上)を対象に、価値創出の担い手として戦略の実行力に主眼を置き、特に戦略理解と行動計画への落とし込みのためのスキル獲得を狙いに企画した。

講師の(公財)日本生産性本部主任経営コンサルタント筒井健太氏は、①管理職の役割、②戦略→実行課題→行動計画への落とし込み、③リーダーシップ、④組織と人の活性化、⑤ブレないリーダーについて、ポイントを踏まえ具体的な事例も交えて解説した。グループに分かれて活発なワークや演習を行い、最後の⑤ではビジ



ネスの原理原則を正しく理解し、リーダーのブレないベースをつくることについて学んだ。



参加者NOTES

「管理職中級ステップアップコース」 を受講して

AWS株式会社 ソリューション本部
ソリューション部 主任補佐

菊原 航介



私は講習の対象より少し下の役職ではありましたが、管理職の視点を得るために参加しました。昨今は、時世の流れの速さもあり、会社から求められる役割が大きくなっています。特に、既存のマネジメント業務だけではなく、組織・事業を変革していくことが求められています。

「管理者の業務」の項では、まさに「変革課題」として焦点が当てられており、その課題を遂行するためのプロジェクト推進方法を、「戦略→実行課題→行動計画への落とし込み」の項で学びました。ここで印象に残ったのが、プロジェクトの定義(目的、目標の明確化)が

重要であるという点です。この定義が曖昧だと、後続の計画、実行が正しく出来ないため、今後はこの点を意識してプロジェクト推進していこうと思います。

プロジェクト・仕事を推進するには、部下への働きかけが必要です。それを受け入れてもらうには「信頼を得る」ことが重要だと「リーダーシップ」の項で学びました。その信頼は自身の知識・経験、人としての魅力、価値観・信念から生まれ、それがリーダーシップの土台になるということを意識したいと思います。

「組織と人の活性化」の項では、組織・人を活性化(仕事へのモチ

ベーション、意欲の向上)するには、部下の自己実現欲求、自己重要感の充足が重要だと学びました。この充足には、仕事の各段階(開始、最中、終了)でのリーダーの働きかけが重要です。それらはプロジェクトの定義・計画・実行とリンクしており、プロジェクトを正しく進めることが肝要であると改めて理解しました。

最後に「ブレないリーダーとは」の項で、企業の目的、利益とは何かを学びました。顧客第一でビジネスを行い、その結果として利益がついてくるということを信念とし、それを部下にも伝えていきたいと思っています。

講義全体を通して演習、グループワークが組み込まれており、理解を深められたと共に、他業界・役職の方の意見を聞くこともでき、非常に勉強になりました。今回の内容を活かし、自身の役割を全うしていきたいと思っています。

■キャリア&ライフデザイン セミナー

～個人の成長を促し

会社の成長発展につなげる～

10月10日(木)、21名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

本セミナーは、富山県主催で、「自身のキャリアやライフを主体的に設計(デザイン)し、人生で実現したいキャリアやライフの目標を明確にすることにより、個人の成長を促すとともに会社の成長発展につなげること」をねらいとし

て開催された。

講師に(株)コトノハ代表 廣川奈美子氏を迎え、参加者は、キャリアとは仕事も含めた人生全般であり、仕事と生活の調和により人生が充実することを学んだ。また、様々なワークを通して過去の自分を振り返り、自分自身と向き合うことから「理想の将来像」について思いを巡らせ、スキルアップを目指すことの大切さ、理想の将来像に近づくためのプロセスについて理解を深めた。



最後に参加者全員で名刺交換をし、企業間交流を行った。

■ヒューマンエラー 未然防止セミナー

10月11日(金)、42名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

近年、技術面におけるプロセスの改善が進むにつれて、ヒューマンエラーによる品質トラブルや事故の発生が大きな問題となっていることから本セミナーを毎年開催している。

講師の中央大学理工学部ビジネスデータサイエンス学科教授 中

條武志氏は「ヒューマンエラーを引き起こす人の特性」について事例を用いて確認した後、ヒューマンエラー未然防止の考え方と方法論について、「エラーループ化の原理」「作業に潜在するヒューマンエラーの危険の洗い出し方」「対策案を評価・選定する方法」を含め、「ヒューマンエラー未然防止活動」を自分の職場・チームで進めるためのポイントについて講義した。引き続き、グループ演習を行い、



エラーループ化の3ステップの進め方について実践的に学んだ。

■ISO9001内部監査員養成講座

11月5日(火)・6日(水)、32名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

国際規格であるISO9001は品質マネジメントシステムに関する要求事項を規定するものであり、県内においても認証取得企業は多く、実施が義務付けられている内部監査の要員養成も企業にとって避けて通れないところであり、本講座を年2回毎年開催している。

講師の(株)テックス ISOコンサルタント 青山俊一氏は、内部監査は不適合の「修正処置」に留まらず「改善ツール」であることを再認識する必要があるとした上で、約1日半のカリキュラムで、ISO9001規格のポイント、要求事項の解説、ISO9001監査プログラムの概要などについて解説した。2日目の午後から内部監査の実技演習を行い、監査所見の作成を通じて自職場で内部監査を行う上で



のポイントを学んだ。

労務管理

■労働法実務講座(第3回)

11月21日(木)、「退職・解雇・雇止めをめぐる人事労務管理上の諸問題」をテーマに、27名(会場16名、オンライン11名)が参加して開催した。

講師に第一協同法律事務所の伊藤昌毅弁護士を招き、使用者から一方的に労働契約を打ち切る解雇・雇止めに関する諸問題、退職

の意思表示の撤回や退職の取消しの主張をめぐる問題、退職勧奨とその限界、希望退職募集における留意点、傷病休業期間の満了による退職について、裁判例や講師が相談を受けた具体的ケースを取り上げながら分かり易く解説した。

受講者の中には、実際に問題に直面している企業もあり、講座終了後に数多くの受講者が講師に個



別相談していたこと、アンケート結果も概ね高評価で、全般的に好評な講座であった。

品質管理

■変化点管理の

考え方・進め方セミナー

11月15日(金)、来場15名・オンライン4名、合わせて19名が参加し、富山経協・研修室で開催した。

講師の(一社)中部産業連盟 主任コンサルタント 内山幸二氏は、変化点管理とは、5MのMan(人)、Machine(設備)、Material(材料)、Method(方法)、Measurement(測

定)の5つに対し、3H(初めて、久しぶり、変更)の3つの視点で品質の変化を確認し、問題があれば未然に手を打つことであるとした上で、タートルモデルを活用した職場の作業に対する変化点の要素理解から、変化点管理ボードなどを活用した見える化による異常発見の方法、統計的解析手法を用いた変化点管理などについて、講



義と個人演習を通じて考え方や進め方を学んだ。

参加者NOTES

「変化点管理の考え方・進め方セミナー」 を受講して

BBSジャパン株式会社
製造本部高岡工場 加工課

中川 和敬



私は、自動車のホイールを製造する会社で製造部門の加工課に所属し、旋盤機、マシニングセンターを使用して切削加工を行っています。品質を管理していく上で変化点はすごく大事だという認識はありますが、どこまでを管理し、どこを管理しないのか、の線引きは普段から悩むところで、今回のセミナーで考え方や進め方を学びたく参加しました。

セミナー内容は大きく分けて、変化点とは何か、管理する、変化点の見える化について行われました。変化点とは何かでは、5M(人、

設備、物、方法、測定)に分けて考えるとところからでした。また、変化点=変化点管理ではなく、重要な項目は3H(初めて、久しぶり、変更)に当てはめて管理すべき変化点を考えることが重要だと分かりました。私の課でも中途社員や他部門から応援をして生産を行った際に、抜けやトラブルが起きることがあります。セミナー後に人の管理方法を見直しするいい機会を学んだと思います。

管理の仕方で特に印象に残ったのは「変化点管理表」の作成です。私の課には変化点管理表の様な一

覧表がなく、とても管理がしづらい状態でした。実際の表や項目を例で取り上げて頂き、作成するイメージが沸き、今後に生かしていきたいと思います。その中での変化点確認シートの取入れや変化点管理ボードを使用し管理をする方法は初めて知りましたので、自社で広めていきたいと思っています。

セミナーを終えて、私自身の変化点に関する考え方や自部門のレベルが分かるいい機会でした。どこまでを管理するか?も3Hに当てはめて重要性を考えることを行っていきます。自部門で何を開始できるかをこれから考えて、学んだだけでなく管理をより分かりやすくするように実行していきます。これからもいろいろなセミナーに参加していきたいと思っています。ありがとうございました。

■実践しながら学ぶ 統計的手法活用講座

5月16日(木)から富山経協・研修室において開講した「第68回実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」は、11月28日(木)に15日間の全日程を終えて閉講した。

この講座は、企業の体質改善を進めるために重要な役割を担うスタッフ・技術者を対象に、問題解決に必要な統計の品質管理(SQC)手法を学びながら、職場で起きている身近な問題を上司とキャッチボールの上テーマ設定し、グループ別にコンサルティングを受けながら、学んだ手法を駆使して問題解決に取り組み、その内容を研究論文にまとめて提出すること

で、実践的な活用方法を習得することをねらいとしている。

最終日の11月28日には、先に開催された論文審査会でコンサルティング講師より推薦を受けた優秀論文3件の発表の後、講座全体を通して総合評価上位3名が優秀賞の表彰を受け、受講者22名が無事修了証を手にした。

〈優秀論文〉 西角 寿紀さん (アイシン軽金属(株))
谷村 珠緒さん (富士フイルム富山化学(株))
今井 結衣さん (YKK(株))
〈優秀賞〉 碓井 悠太さん (コーセル(株))
武田 祐也さん (コーセル(株))
今井 結衣さん (YKK(株))

〈講師派遣等のご協力企業〉

アイシン軽金属(株)、コーセル(株)、(株)タカギセイコー
中越合金鋳工(株)、(株)リッチェル



参加者NOTES

「実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」 を受講して

コーセル株式会社
VE開発部 VEC推進一課

碓井 悠太



私は直流安定化電源とノイズフィルタを製造販売しているコーセル(株)でVE推進開発部に所属し、既存製品のコストダウン・生産中止部品対応に携わっております。

弊社ではQC教育に力を入れており、入社後すぐに社内教育としてQC7つ道具やSQCなどを学ぶ機会があります。また、実践の場として会社全部署でQCC活動も実施しており、年間2件以上を目標に日々改善活動に取り組んでいます。

私は、その活動の中でもリーダーとして活動に参加しているのですが、基礎的なQC7つ道具を使用して活動を進める事が多く、あまり本講座で学ぶようなSQC

的手法を実践に取り込めていませんでした。そこで、今講座を受講し実践的にどのように活用できるかを学び、より広い視野で活動を進められるようスキルアップしたいと思い、受講しました。

本講座では、統計学基礎から始まり、SQCについて一から講師の方が丁寧に実践での活用事例も織り交ぜながら教えていただけると、「仕事のこのような場面に生かせるのでは」という想像もしやすく勉強になりました。

研究論文作成に当たっては、グループディカッション形式のコンサルティングが全5回設けてあり、様々な分野の方の研究も聞くことができるので、良い刺激にな

りました。他の受講生と交流し、意見を聞ける貴重な機会なので、自分になかった視点や新しい知識を知る事、聞き手の立場になって分かりやすくまとめる事の大事さも実感でき、良い経験になりました。

また、経験豊かな講師の方々からも指導を受けることができ、私が平均の差の検定を誤った理解で使用した際には、分かりやすく丁寧に間違っている点を説明いただきました。おかげで、正しい手法を身に付け活用する事ができました。

今後は学んだ統計的手法を活用し、品質向上・業務効率化や、身に着けた知識・教え方を同僚・後輩へ広めて、会社全体のQC知識の向上へ貢献したいと思います。また、自分も継続して知識を蓄え社内のQCC活動をリードしていきたいと思っています。

生産管理

■ものづくり女性社員のための改善力向上セミナー

10月25日(金)、ものづくり企業で働く女性社員29名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

改善活動で大きな成果を上げている企業の多くでは、女性社員が活き活きと取り組み、持ち味を活かした改善事例が数多く見受けられており、また、経営環境を取り巻く様々な変化を受け、ものづくりの現場においてもますます女性

社員の活躍が求められていることから本講座を企画している。

講師の高林るみ子(株)日本能率協会コンサルティング プロフェッショナルアドバイザー・TPMコンサルタントから、女性社員の活躍に必要な環境づくり・現場活性化の「仕掛け」や「仕組み」として、①改善活動概論、②生産活動の基礎知識、③5S活動の進め方、④改善活動の基礎知識の4つのテーマについて学んだ。また、グルー



プ演習では不具合や改善の見える化の役割を担う自主保全活動に欠かせない「エフ付け」について、女性ならではの視点で実際の現場写真に付箋を貼って体験し学んだ。

■5Sと目で見える管理実践セミナー

12月5日(木)、31名が参加して富山経協・研修室で開催した。

講師の(株)日本能率協会TPMコンサルタントの金子裕行氏は、5Sの目的は、問題だと感じ、整理・整頓を行い、状態を維持する習慣を身につけた人づくり・企業体質づくりであるとした上で、5Sを

定着させるポイントとして、現場の状態が正常か異常か目で見えすぐ分かり、必要な手がすぐに打てる状態にする「目で見える管理」が重要であると説明した。また、グループ演習では受講者同士が自職場の写真を持ち寄り、講義で学んだ5Sの着眼点から現場写真の問題点を検討し、意見交換と改善案の討



議を通じて5S活動の進め方について理解を深めた。

新会員の紹介

■株式会社リード・エス 富山営業所

所在地 富山市桜橋通り3-1
富山電気ビルディング本館2階
代表者 代表取締役 須賀 保博
設立 2024年(令和6年)9月
資本金 4,500万円
従業員 10名(県内1名)
事業内容 職業紹介・労働者派遣業(外国人高度人材の派遣・紹介、および特定技能支援業務)

会員の動き

(50音順)(敬称略)

■代表者の変更(窓口代表者)

高岡交通株式会社
代表取締役社長 渡辺 寛人(前:渡辺守人)
株式会社セキノ興産
代表取締役社長 関野 洋平(前:山口輝雄)
アルコット株式会社
代表取締役社長 矢澤 剛志(前:浅野 端)

富山県経営者協会ホームページ 全面リニューアル より使いやすく、わかりやすく

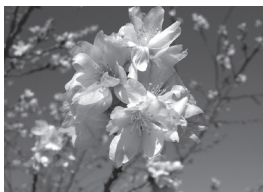
12月19日
午前8時～

主な変更点

①トップページのコンテンツ表示を「カラム型」に変更
目的のページに素早く辿り着くことができます。

②講座・セミナーの受講申込みに「マイページ」を導入
ホームページ上で変更申込みが可能になります。受講申込み状況や受講履歴の確認ができます。(リニューアル以降分)

③「会員専用ページ」を導入
会議・会員懇談会等の参加申込みがホームページ上で可能となります。



表紙の花
コシノフクカサネ

(富山県中央植物園 園長 中田政司)

富山県固有の二期咲きのサクラ

富山県は桜の王国で、これまでに14品種が中央植物園によって発表されています。このうち、「二期咲き性品種」といって、晩秋と春の2回開花のピークがあり、暖冬の年には冬も咲き続ける桜が二つあります。一つは2007年に表紙で紹介した‘コシノフユザクラ’ですが、もう一つが今回ご紹介する‘コシノフクカサネ’（越の福かさね）です。

この桜は朝日町と入善町で栽培されていた品種で、とやまさくら守の会会員が発見し、中央植物園との共同研究で、2010年に新品種として発表されました。花弁が5枚の一重咲きの花と、6～10枚の半八重咲きの花が混ざるのが特徴で、咲き進むと花色が白からピンクに変化し、花弁が散りにくいという特徴があります。

公募によって新品種名が決定

発表時にはまだ名前が付いていなかったことから、県では2013年に新品種の名称について一般公募を行うことになりました。その結果、県外約200名を含む666名の方から1025点の応募があり、選考の結果‘越の福かさね’と決定されたのです。秋と春の二回咲くこと、花弁が一重の花と八重の花があること、花が白からピンクに変化すること、散りにくいことなど、重ね重ねの喜びが感じられる名前というのが選考理由でした。

二期咲き性品種の中では花着きもよいため、春の開花期には華やかな姿が楽しめるのも特徴です。

コシノフクカサネの花（4月）▶



人事部門の皆さまへ

シニア社員の採用を検討してみませんか！

60歳以上のシニアの方を積極的に採用し、
豊富な経験と知識を持つシニア社員を活用している企業が増えています。

キャリア人材バンク

産業雇用安定センターでは、「キャリア人材バンク」事業としてシニアの方の貴重なスキル・経験を求める企業に対し、多様な働き方ができる人材をご紹介します。再就職につなげます。
60歳以上のシニアの方の再就職支援を行い、
富山県内の多くの企業・団体から採用をいただいています。

利用料
無料

▶ 詳しくはこちらまでお問合せください



公益財団法人 **産業雇用安定センター**
富山事務所

〒930-0857 富山市奥田新町8-1

ゴルフアートとやま10階

TEL 076-442-6900

ご利用時間／9:00～17:00
(土・日・祝日は休み)

「産雇通信TOYAMA」でさらに詳しい情報をご覧ください。
こちらの2次元バーコードよりアクセスください。



2025年



(ご案内済み)

2025年 1月6日(月) 16:00～17:30
(受付: 15:30～)

場 所: ANAクラウンプラザホテル富山 3階 鳳
富山市大手町2-3 電話 (076)495-1111

新田県知事ならびに行政の責任者の皆様をお招きして、
県内経済5団体合同で開催します。

- ・(一社)富山県経営者協会
- ・富山県商工会議所連合会
- ・富山経済同友会
- ・富山県中小企業団体中央会
- ・富山県商工会連合会

幹 事 会

(別途ご案内申し上げます)

2025年 3月7日(金)
16:30～

場 所:
富山電気ビル 2階 202号室
富山市桜橋通り3-1 電話(076)432-4111

<内容>

- ・2024年度事業報告
- ・2024年度収支見通
- ・2025年度暫定予算

事 業 予 定

2024年12月16日～2025年2月14日

詳しくはホームページ(<https://www.toyama-keikyo.jp/>)

「講座・セミナー案内」をご覧ください。

OL=オンライン併用開催

	開 催 日	時 間	事 業 名	委員会名	場 所
会議	2月28日(金)	16:30～17:30	経営企画・IT委員会「定例委員会」	経営企画・IT	富山経協・研修室
会員交流	1月6日(月)	16:00～17:30	新春互礼会 上記「おしらせ」参照		ANAクラウンプラザホテル富山
講座・セミナー	12月17日(火)	13:00～17:00	タイムマネジメント研修	教 育	富山経協・研修室
	12月17日(火)・18日(水) 1月14日(火)・15日(水) 2月4日(火)	9:30～17:00	現場の技術・技能伝承支援研修	品質管理	富山経協・研修室 現場実習企業 インテック大山研修センター
	1月16日(木)	9:30～16:30	C S顧客価値実現セミナー	教 育	富山経協・研修室 OL
	1月21日(火)	9:30～16:30	企業倫理研修	教 育	富山経協・研修室
	1月22日(水)・28日(火)・29日(水) 2月7日(金)	9:30～16:30	品質管理入門講座 <実践編>	品質管理	富山経協・研修室
	2月13日(木)	13:30～16:00	労働法実務講座(第4回)	人事・労務政策	富山経協・研修室 OL

「富山経協」vol.885

2024年(令和6年)12月号
2024年12月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0856 富山市牛島新町5番5号(タワー111ビル 1階)
TEL (076) 441-9588 FAX (076) 441-9952

ホームページ <https://www.toyama-keikyo.jp/>
Eメール info@toyama-keikyo.jp